

VOL.35 2016 SPRING



表紙：2016年3月で退任される川向教授（本文にご挨拶を掲載）

退任教授のご挨拶

川向 正人

1950 年	香川県生まれ	1981 年	明治大学工学部助手
1974 年	東京大学建築学科卒業、同大学大学院進学	1988 年	東北工業大学助教授
1977 ～ 79 年	オーストリア政府給費生としてウィーン大学美術史研究所・ウィーン工科大学留学	1993 年	東京理科大学理工学部助教授
1981 年	東京大学大学院博士課程満期退学	2000 年	コロンビア大学客員教授
	「19 世紀歴史主義の建築史的研究」で工学博士学位 取得	2002 年	東京理科大学理工学部教授
		2005 年	東京理科大学・小布施町まちづくり研究所長兼務

ほんとうに、あっという間でした。1993 年 4 月に理工学部建築学科に赴任してから、2016 年 3 月に定年を迎えるまで、23 年の歳月が過ぎました。この記念冊子は毎年、卒業式・修了式場で配られるはずですが、会場にいる学生のみなさんが生まれ、いろいろなことを習得して、社会人となって立ち立っていくのと、ほぼ同じ歳月を教員として野田のキャンパスで過ごしたと思うと、実に感慨深いものがあります。教えたというよりも、私が学生、教職員の同僚、OB や OG のみなさんから学んだものの方が多いと思います。ありがとうございました。

殊に 1990 年代初頭には、いわゆるバブル経済がはじけ、景気の低迷期が始まりました。私自身、この 23 年間に何度、「就職氷河期」「就職^{ちよう}氷河期」という言葉を聞いたことでしょう。教える学生も自分も、知恵を絞りスキルを身に付け、さらに磨きをかけなければ生き残れない時代の真ただ中で生きていることに気付いて、何度、慄然^{りつぜん}としたことか。

では、浮き沈みの激しい時代で、この前まで景気の良かった連中が全員、社会の表舞台から消えてしまったかという、実は、そうでもない。良い施主、良いスタッフや友だちに恵まれ、コンベにも勝ちながら、タフに生き抜いている人々も、建築界には大勢います。社会がバブル経済にうかれていても不況続きで意気消沈していても、彼らは、世の中のファンダメンタルにちゃんと重心を置き、批判精神を忘れずに、できること、やらねばならないことを正確に捉えて、いい仕事をしています。建築（家）は、古代ギリシャのテクトン（大工、構築者）の時代から、世界の秩序付けとか世界の建設にかかわるものとして誠実で、むしろ真っ正直であり続けてきたと、私は思っています。建築はすごく泥臭い世界でもあります、思考が明晰で、精神が純粋でないと、やっていけない世界ではないでしょうか。

私は近現代建築史の研究者ですので、安藤忠雄さん、伊東豊雄さんの世代から、西沢立衛さん、藤本壮介さん、平田晃久さんの世代まで多くの現代建築家たちと交流があって、この交流を大切にしながら、長野県小布施町に「東京理科大学・小布施町まちづくり研究所」という全国で初めての学生が常駐する研究所を創設して、まちづくりにも取り組んできました。現代建築の最先端の思考をまちづくりに持ち込み、協働・ワークショップの手法を使って、住民・行政・学生たちに、建築とまちづくりの醍醐味を味わってもらいました。2005 年から 10 年間その活動を続けて、私が大学を定年退職する 2016 年からは、まちづくり研究所は徐々に、国内外の大学・研究機関に開かれた場になっていきます。志ある者の誰に対しても開かれた場となりますので、どうぞ、ご遠慮なくお訪ね下さい。



まちづくり研究所主催の町内の小
学生を対象とする「土壁ワーク
ショップ」。制作の前に職人の実演
を見る。二〇〇六年八月

川向教授退任に寄せて

神田 徳蔵（1994 年～ 1997 年 9 月 助手）

私の研究テーマは地域施設計画や農村計画に関わるものでしたが、川向先生の前任者（建築史・建築論担当）の助手であったことやその他種々の事情も考慮していただき、1994 年 4 月から 3 年間に限って川向研究室の助手を務めることになりました（実際には 3 年 6 か月在籍）。専門分野の大きく異なるものが助手になるという変則的な状況を川向先生が受け入れて下さったことにより、その後に学位（博士）取得、講師への昇格、研究室の設置という展開を得ることができました。紙面をお借りし、改めてお礼申し上げます。

川向研の卒研究生・大学院生に対しては、分析・論理の組み立て・論文構成などに関しての基礎的事項について、それまでの経験をもとに助言してきたつもりです。専門分野が異なる私からの助言ですが、少しは役立ったかなと思っています。

また、当時の研究室の雰囲気を振り返ってみますと、川向先生が着任当初であったにもかかわらず、タテ・ヨコのつながりが大変強かったという印象があります。これは、学生参加の色々な催しを先生が企画し、学生がそれに積極的に参加したことによって培われたのではないかと思います。アメリカ東部建築見学（14 日間）、毎年のゼミ旅行や忘年会（クリスマス会）、そして野田市の「まちなみフェスタ」（2 回）等での先生や学生達との交流は今でも記憶に残っています。

健康にご留意いただき、今後も益々活躍されることを祈念しております。



1994 年 3 月 アメリカ東部建築見学

加藤 耕一（2002 年～ 2003 年度 助手）

川向先生の怖さは、川向研で鍛えられた人たちならば、誰もが骨身に染みていることだろう。研究室の緊張感、先生を前にしてスッと背筋が伸びる感覚、そして驚愕するほど密度の濃いゼミ。川向研で鍛えられた人ならば、社会に出て恐れることなど何もないはずだ。

僕自身にとっては、川向研究室は初めての就職先だった。建築の歴史、理論、思想、空間、地域、都市を多層的に論じる川向先生の研究の幅広さに圧倒され、深夜まで続くゼミでの指導では、トップギアで突っ走る川向先生の思考スピードについていくために、こちらも死にものぐるいだった。現在、大学で建築史の研究室を持つようになった僕にとって、川向研でのすべての経験はもっとも重要な原体験である。

川向研究室で助手をつとめた2年間での思い出は、あの緊張感漂う研究室の風景に加えて、折々に開催されたゼミ旅行だ。このゼミ旅行で、川向研のエネルギーの源である研究室の団結力が最大限に発揮される。何台もの車を連ねてのドライブ、建築見学、学会シーズンならば研究発表、そして何を措いても外すことのできないのが温泉だ。川向先生の「温泉論」で強烈に印象に残っているのは次のようなものである。一緒に温泉に入ること、身体と身体の間にある媒体が気体ではなく液体となり、それによって人間関係がいつそう濃密なものになるというのだ。温泉でリラックスなどしている場合ではない。研究室のアトモスフィアをお湯の波動に実感し、緊張感ある団結力を高めるのだ！

川向先生、先月も小布施と湯田中温泉で一緒させていただきましたが、次回も楽しみにしております。



2015 年 12 月湯田中温泉にて

川上 光洋（川向研究室 2 期生 2005 年～ 2006 年度 助手）

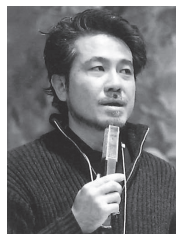
今、私たちは歴史の大きな転換点にいます。世界が新しい時代へと向かうなかで、川向先生が大学をご退官され、新たなフィールドを開かれることを、お慶び申し上げます。

時代が変わり、人々の考え方や行動が変われば、建築のあり方も変わります。先生の講義や研究ゼミを通して、建築から、社会の変化を読み取り、変わらない価値を見出していくことを教わりました。なかでも、大学院講義は、先生の思考の積み重ねを紐解くように教えていただき、とても刺激的な時間だったことを思い出します。叶うなら、再び、先生の講義を聞きたいと願っています。

私は、川向研究室の助手を辞して9年になります。先生のご退官を前にして、歳月以上に距離を空けてしまったことを、ひどく心残りに感じます。今でもよく覚えています。学部3年時に先生のアメリカ現代建築ツアーに参加したことが、研究室の門をたたく切欠になりました。その後、助手も含めれば、10年間に研究室で過ごしました。思い出は、次々と湧き上がってきますが、とくに温泉と結びついて鮮明に覚えていることは、研究室独特なのかもしれません。温泉につかり、先生から研究について聞かれると、潜りたくなるほど緊張したものです。先生のお計らいで、先生のお姉様の山梨のアトリエで博士論文をまとめ、その帰りに「ほったらかし温泉」から眺めた景色は、私の大切な宝物です。川向先生、長きに亘り、ご指導を頂き本当にありがとうございました。



富士山登頂を遂げたチーム川向隊



廣瀬 大祐（川向研究室 5 期生）

恩師 川向先生とのこれから。

1993 年運河。私が学部1年生のときに建築史の授業があり、歴史上の建築の意図、都市と建築の関係について、理論的に、熱く、ときには厳しく講義が行われていました。遊んでばかりいた私にとって、「建築を学んで楽しい」と実感できる時間、毎週待ち遠しい講義だったことを覚えています。それが、川向正人先生との出会いでした。広い視野を持つためには、刺激や苦境の経験も伴います。この修行の始まりもまた、川向研究室のドアをノックして始まりました。何を考えて良いかすら分からなかった私に、常に提案と機会を与え続けてくれたことをよく覚えています。地方へ、海外へ、東京の真ん中へと、考察を駆け巡らせた日々でした。

2001 年ニューヨーク。川向先生とコロンビア大学で再会をし、様々な方をご紹介いただき、多様な視点を持って生きていけることを教えていただきました。帰国してからは、非常勤講師に呼んでくださり、学生達との野心的な活動も見守っていただきました。ここ数年間は、まちづくりのあるべき姿への挑戦にご一緒させていただいております。これまでの感謝を深くお伝え申し上げます。本当にありがとうございました。これからの野田建築に、川向先生から頂いた知恵と経験をつないで参ります。

私を含め、研究室 OBOG 達は、いろんなプロジェクトを川向先生と進行中です。むしろ、これまで以上に一緒させていただくこともあるかと思います。休んでいる暇はありませんね！今後ともよろしくお願いいたします。

「OB と語る会」が開催されました

平成 27 年 12 月 7 日

大宮研究室 助教 野秋 政希（2015 年博士課程修了）

12 月 7 日（月）に OB と語る会が実施された。今回の OB と語る会では、40 名近い学生が出席したことに加え、理工学部長の北村先生や建築学科主任の永野先生にもご参加いただき、会は盛況に終わった。懇親会にも多くの学生が参加し、社会と東京理科大学理工学部建築学科が大変良い交流の時間が持てたと言える。

今回は、2 名の講師（理科大の OB）をお招きし、主に各講師の仕事内容に関してご講演いただくと共に、理工学部長の北村先生にもご挨拶の言葉をいただいた。

一人目の講演者である加藤元樹様は野田市山崎出身、野村研究室卒業という理工学部建築学科に非常にゆかりのある方である。現在、株式会社マイダスアイティジャパンに務められており、加藤様が専門とされている構造解析の数値シミュレーション等についてご講演いただいた。かなり専門的な内容だったため、構造系の研究室の学生には各自の研究が実務でどのように活かされるのかを感じるためにも大変良い刺激となったと思われる。

次に、ペーパーレススタジオジャパン株式会社の勝目高行様にご講演いただいた。講演内容は勝目様が専門とされている BIM（ビルディング・インフォメーション・モデリング）の説明がメインであった。BIM は学生にとってまだ馴染みのないワードなようで大変興味を持って講演を聞いている様子が伺えた。また、日本の建築を BIM 化する活動にも積極的に関与するなど、社会で活き活きと活動されている様子に学生が感銘を受けている印象を受けた。

東京理科大学理工学部は 2017 年 4 月で創設 50 周年を迎えることになる。冒頭の北村先生のご挨拶では、その後 50 年間、理工学部をさらに発展させていくには、理工学部を卒業した先輩方と現役の学生の協力が必要との激励があった。OB と語る会は両者の交流を図る場の一つであり、この会が理工学部建築学科のさらなる発展に貢献できることを期待する次第である。



加藤 元樹（かとう もとき）

1972 年 12 月 4 日生まれ

千葉県野田市出身

略歴：

1997 東京理科大学理工学部建築学科卒業（野村研究室）

1999 東京工業大学総合理工学研究科修士課程修了（元結研究室）

2004 ジューエスディー

2010 マイダスアイティジャパン

仕事：工学用シミュレーションソフトウェアの企画及び開発業務
建築物 / プラント施設等の構造設計及びコンサルティング業務

現在は構造設計のトータルソリューションを目指し、一貫計算から詳細解析、構造図の自動生成まで対応する統合プラットフォームの構築を推進しています。

信条：何事にも誠心誠意をもって取り組む



勝目 高行（かつめ たかゆき）

1970 年 4 月 14 日生まれ

鹿児島県鹿児島市出身

最終学歴及び所属研究室：東京理科大学理工学部建築学科初見研究室

卒業年：1992 年

現在の仕事：

ペーパーレススタジオジャパン株式会社 < 東証一部上場：パイプド HD（証券コード 3831）子会社 > 代表取締役社長

プロフィール：

東京理科大学理工学部建築学科卒業後、直ぐにネットワークを活用した次世代型デザインシステム構築を目指し独立。BIM コンサルティング企業として、30 名のスタッフを率いる。国土交通省前橋合同庁舎 BIM プロジェクトをマネジメント。

企業理念：ArchiSymphony= 建築情報最適化サービス

一．建設に関わるすべての人に調和と利益を提供

一．クリアで洗練された建設プロセスの構築

一．循環型社会・持続可能性事業の創造

一．2.5 次建設産業の創生

現場見学会 ポラテック株式会社 坂東工場

平成 27 年 11 月 7 日

涌井 栄治 (1987 年修了)

11 月 7 日 (土) 住宅メーカー「ポラス」のプレカット工場の見学会が開催された。見学するプレカット工場は野田市の隣町 - 茨城県坂東市にあるが、最寄駅より離れており車で分乗していくこととなった。当日は理科大野田校舎に集合し 9:30 に車で出発した。交通に支障はなく予定通り 10:30 から見学会は開始された。すべての対応は、ポラスグループ「ポラテック」プレカット事業部 今福様によりなされた。

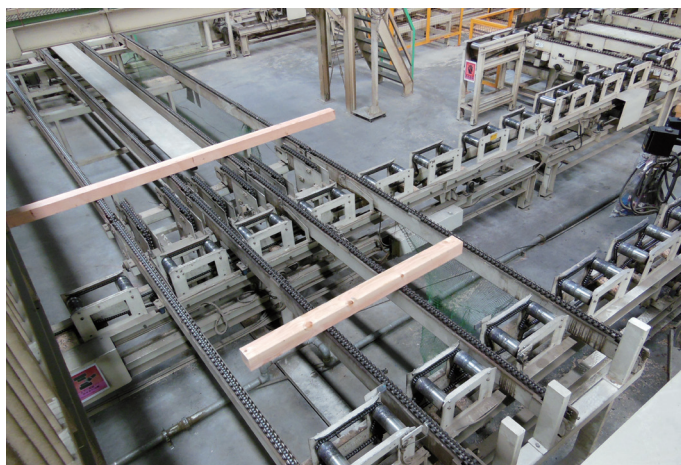
はじめに工場の説明が行われ、次いで工場内見学、最後に追加質問の形式で行われた。

ポラスのプレカット工場は全国に 4 か所にあり、日本一のプレカット工場であること。坂東工場は其中でも最大規模で敷地面積は東京ドームの 3.3 倍、月間生産能力は最大 68000 坪 (30 坪の住宅換算だと 2250 棟)、メンテナンス期間だけ休業し年間 355 日 24 時間稼働、プレカットの請負はポラスが 3 割で地域工務店・他ハウスメーカーが 7 割との説明があった。

プレカット工場内では、工場が 290m×90m でかなり広く、随所でけたたましい木材加工の音なり響いていた。加工前の材料置場には 3 日分の加工前材料がストックされていること、8 割が集成材、輸入材 (オーストリア、フィンランド、ロシアなど) が多い、火花検知システムが各部で稼働していること、加工済み材のストックヤード (ここから各地域拠点に仕分けて配送される) も巨大で 3 日分のストックが可能、木材料とともに配送される金物は 3000 アイテムあるとのことであった。

見学会は 1 時間の予定であったが、実際には多くの説明質疑で 12:30 の終了となってしまった。

参加者は残念ながら 6 名でしたが、予定時間を超えるほど充実した見学会となりました。ポラテック様並びに今福様にはお忙しい中、見学会の開催また多くの質疑にもお答えを頂き感謝しております。



製造ライン



ストックヤード



説明風景



記念写真

研究室 OB 会特集

北村研 OB / OG 会「三友会」開催報告

平成 27 年 9 月 19 日開催

佐藤 利昭 (2007 年修了)

北村研の年中行事の 1 つである OB/OG 会、通称「三友会」が 9/19 (土) に開催された。例年、本会とゼミ合宿、日本建築学会の年次大会が夏の 3 大イベントとなっており、本年度は日程調整の結果、少し遅い開催となった。本会は OB/OG が近況を報告しあい、知を共有する真面目な会を第 1 部とし、その後、場所を新宿に移して第 2 部の立食パーティとなる。参加者の多くは双方に参加されるが、第 2 部を前に早退される方、第 2 部から参加される方の顔ぶれを興味深く確認してしまうのは、悪い癖かもしれない。

各部を少しご紹介したい。第 1 部では、大手・個人の設計事務所からゼネコンまで、合計 6 名の OB/OG が近況を報告した。各社の特色のある仕事内容は、社風まで透けて見える様で個人的に楽しめたが、各発表の中では最注目もあって、同期にあたる 4 期の三原の発表が印象に残った。修士課程修了から 8 年の中で、得た知識の種類は違えど、経験を積み重ねてきた様子が見られたことは素直に嬉しく、自身の励みにもなった。第 2 部は、北村研の初代助教 (当時の助手) である愛知工業大学・薩川教授の声が響き渡る、大変楽し



2015 年度 三友会・第 1 部 (神楽坂・森戸記念館・第 1 フォラム)

い会であった。本年度は、学生当時の自身を思い出す機会も多く、これが本来の目的なのかと再認識させられた会であった。

本年度のもう 1 つの特徴は、開催時期の遅れもあって、井口研・永野研が合同で開催する OB/OG 会「なみの会」も、同日に森戸記念館で開催されたことである。神楽坂の一角で、これだけの構造設計者・技術者が集められる研究室の結束の強さに驚きながら、少しは後輩の見本となれるように精進しなければと考える今日この頃である。



2015 年度 三友会・第 2 部 (新宿・小田急ホテルセンチュリー・宴会場)

永野研究室・井口研究室 第 1 回合同 OB 会「なみの会」

平成 27 年 9 月 19 日

涌井 栄治 (1987 年修了)

第 2 回目の永野研究室と旧井口研究室的合同 OB/OG 会「第 2 回なみの会」が 2015 年 9 月 19 日 (土)、講演会は神楽坂の森戸記念館、懇親会は porta 神楽坂の理窓会倶楽部にて開催されました。

第 2 回なみの会も、現在・過去・未来の「人」と「技術」の継承を目的とし、第 1 部の研究会、第 2 部の懇親会の 2 部構成 (各 2 時間) で開催されました。第 1 部の研究会は、井口道雄名誉教授と永野正行教授の近況報告、永野先生のもとで博士を取られた渡辺哲史氏の工学博士取得報告、井口研 OB の平木隆文氏、吉田健治氏から近況報告が行われた。

井口先生からは近況報告ならびに隣接基礎間に対する基礎入力動の話がなされた。井口先生は昨今でも勢力的に研究をなされており頭が下がる思いでした。永野先生からは永野研究室にて行われた、4 月のネパール地震被害調査報告などの活動が報告された。渡辺氏からはこれまでの経歴と博士論文についての報告がなされた。平木氏からはこれまでの経歴、携った原子力発電所の安全性向上の取組、原子炉建屋への免震構造の利用など昨今の取組についての報告がなされた。吉田健治氏は



第 1 部 研究会

建築学科の卒業でありながら CG/VR 技術の開発普及に目覚め、日本初のデジタルクリエイター専門の養成学校 デジタルハリウッドなどの起業に尽力し、現在、電気通信大学特任教授に就任されている方である。その吉田氏からは大学を卒業してからの経歴、開発された技術、さらにはこれらの技術を利用した次世代の教育システムの話までと建築を越えた話がなされた。

第 2 部の懇親会では、井口研究室卒業生から永野研究室の現学部 4 年生までの幅広い人が一同に会し、出席者各人からの近況報告などがおこなわれた。最後に記念写真撮影をおこない、第 2 回なみの会も大盛況のうちに終える事が出来ました。次回第 3 回なみの会も多くの卒業生のご参加をお待ちしております。



第 2 部 懇親会

上原研 OB 会 (食事会)

平成 27 年 10 月 17 日

白岩 和浩 (1985 年卒)

昨年 10 月 17 日 (土) に上原研 OB 会が千葉県北習志野で催されました。北習志野駅は、1966 年新京成線の駅としてスタートし、1996 年に東葉高速線が乗り込みました。なぜこの地を選んだかという点、上原先生のご自宅の最寄駅だからでした。実は、上原研 OB 会はその前の会は 2013 年に銀座で実施したのですが、当初、ご出席予定だった上原先生が直前に体調を崩され欠席されるというアクシデントがありました。

そこで、今回は、もし可能であればという期待を込めて自宅のご近所で計画しました。

上原研究室は、昭和 51 年から平成 7 年まで 20 年間に渡り、281 名



OB 会スタート時に撮った集合写真

の OB を送り出した計画系の研究室で、上原先生が国鉄の OB であったことから「群衆流動」や「歩行空間」等駅舎に関係する卒論テーマがあることが特徴の研究室でした。

当初、千葉県の少々耳慣れない場所での開催に OB が集まるだろうか和幹事グループは心配をしながら呼びかけをしましたが、結果としては、多くの OB が先生との再会を楽しみにして集まって頂きました。

上原先生は、OB 同士の結びつきが大切というお考えで、野田建築会の立ち上げにもご尽力頂きました。その遺伝子は確実に卒業生にも伝わっているようで、先生の席の周りには、近況報告をする OB の列が途絶えることがありませんでした。

先生は既に卒寿を超えられていますが大変お元気でしたので、50 周年記念行事も含めて定期的に OB 会を重ねていければと皆考えております。

最後に添付の集合写真が先生の体調を考慮して中座もありうるかと会の始めに取った、皆しらふで少々真面目顔の集まりであることを申し添えます。



上原先生からのご挨拶

武田研究室 OB 会「たけのこ会」の活動報告

平成 27 年 10 月 3 日

中山 「たけのこ会」 副会長（1975 年卒）

「たけのこ会」は武田仁先生を中心に武田研究室卒業生 528 名からなる OB 会です。主な活動としては 5 月に総会、10 月にバーベキュー会を開催しております。

今回は、平成 27 年 10 月 3 日に行われた第 4 回バーベキュー会の様子を紹介します。

バーベキュー会は武田先生が東京理科大学在任中、毎年卒研生が集まる 5 月に顔合わせと親睦を兼ねて先生宅で行われていたものを、「たけのこ会」でも始めようではないかとの声により、平成 24 年から再開いたしました。

当日は武田先生の挨拶から始まり、岩浪会長の挨拶に続いて表彰式に移り、卒研生の中から大いに活躍し社会に貢献した秋山貴洋氏（博

士（工学））に、「たけのこ会」による社会貢献賞が授与されました。（写真 1）

続いて、秋山氏から「空調設備の技術開発」についての記念講演、そして活発な意見交換が行われました。（写真 2）

バーベキュー会場では、講演と並行して岩浪会長のご家族による仕込みと火起こしの準備が行われ、講演終了後、ビールサーバーからビールが注がれ、乾杯となりました。（写真 3）

学生当時の楽しい思い出話や、“今だから言える”本音が出たり、最近の仕事の話などで大いに盛り上がりました。

今後は、さらに充実した「たけのこ会」の発展と、若い年度の卒研生の参加もお願いいたします。



社会貢献賞受賞記念（写真 1）



受賞記念講演の様子（写真 2）



乾杯の発声（写真 3）

「奥田研究室 OB 会 2015」が開かれました！

平成 27 年 11 月 29 日

高安 重一（1989 年卒）

ここ 3 年は代々木公園、北の丸公園とアウトドアの OB 会でしたが、今年は奥田先生宅です。実はこの先生のお宅は、理科大在任当時は新年会に OB、在学生が邪魔していましたので、皆さんにとっても大変懐かしい空間なのです。

もちろん奥田先生の設計で、構造は鉄筋コンクリート壁式構造と木造の混構造です。外観はブラックですが、レモンイエローのエントランスと凸型の共用スペースが接続されています。OB からも「改めてこの空間はカッコいい！」「この人数を収容できるフレキシビリティのある計画だ」というコメントもありました。



凸型の共有スペースに勢揃い

そして宴会は、やはり皆さんにお勧めの飲み物と食べ物を持ち寄っていただくスタイルは変わりませんが、今年はそれに増して奥田先生の義兄の加藤さんの「男の料理」が振る舞われて彩り鮮やかになりました。ちなみに加藤さんのご専門は

地質学ということで、テリーヌやゼリー寄せなど様々な食材が鉢物のように埋まった「地面の断面」を想起させるようなお料理や、ハムとチーズのミルフィーユ仕立ての「地層」のようなお料理もあり、話題をさらっていました。



地質学者の「男の料理」

午後 1 時スタートした会ですが、時間は皆さんの都合に合わせてすいように自由な設定です。徐々に OB が集合しまして、夕方には OB34 名+奥様、お子さん、奥田先生のお孫さんと義兄の加藤さん夫妻合わせて、総勢 43 人と賑やかな会になりました。奥田先生からは近況報告として、アーティストのネットワークをまちづくりに展開する NPO 法人「大森まちづくりカフェ」のお話もいただきました。



奥田先生から近況報告

また今年参加できなかった OB からのメッセージも、お配りして皆さんにお伝えすることができました。

上原研 OB 会出席者への記念品：

1991 年から最近までの全 65 点ミニチュアチェアー作品写真集



築理会野田建築会合同新年会が初めて開催されて

(涌井栄治 1987 年卒 井口研究室)

平成 28 年 1 月 20 日、野田建築会と築理会の新年会が午後 6:30 から開催されました。築理会は工学部 I 部 II 部建築学科の同窓会で、今年初めて野田建築会と合同の新年会となりました。参加者は野田建築会から 25 名、築理会 35 名、理工学部長北村先生はじめ諸先生方を含め総計 60 余名で、参加同窓生の代表挨拶なども交え、かなりの盛会となりました。

一般社会では理工学部も工学部も同じ建築学科出身者としてひとくくりになる現状から、お互いの交流を深める良い機会となりました。今後もこのような機会がありますので、多くの参加者にお会いできることを願っています。



野田建築 50 周年 OB/OG 委員会発足のお知らせ

東京理科大学が 2017 年度に実施予定の「野田キャンパス開設 50 周年記念事業」に併せ、建築学科独自の 50 周年記念の活動や企画提案を行なうため、野田建築 OB/OG を中心とした標記委員会が理工学部建築学科に発足しました。その委員会の下に三つのワーキンググループ (WG) が立上り、野田建築会はそれぞれの WG に全面協力を行なうこととなりました。

今後は活動の状況を逐次お知らせいたします。つきましては、皆様にご尽力を仰ぐこともありますので、ご協力の程よろしくお願いいたします。

NAA からのお知らせ

【会費納入のお願い】

NAA では会則により、2016 年度 (2016 年 4 月 1 日～2017 年 3 月 31 日) の普通会員年会費として 3,000 円を徴収しています。これらは会報の発行、OB と語る会の開催、見学会等の研修、NAA 賞の授与、NAA サイトの維持その他 NAA の活動に有効に活用されています。こうした NAA の運営に向け、同窓生の皆様のご理解とご協力をいただき、同封の振込用紙にて会費納入をお願いいたします。(お手数ですが、納入者確認のため、振込用紙には卒業年を必ずご記入ください)

※会費納入がない場合は、今号を最終発送とする場合があります。

【第 10 回定期総会 (2016 年 5 月 28 日) のお知らせ】

5 月 28 日 (土) 野田キャンパスにて開催いたします。詳しくは同封の案内をご覧ください。



【編集後記】

皆様のご協力のもと、野田建築会は今年で第 10 期を迎えます。本会のさらなる向上をめざし、OB 相互の親睦や学生との交流が深まるよう、それらを発信する会報や HP を充実させていく所存です。諸々のご意見もお寄せください。ご関心のある方、ご協力できる方のご参画をお待ちいたします。

(山崎晃弘 1976 年卒 上原研究室)

先日、初めて開催された築理会野田建築会合同新年会では、新しい出会いや懐かしい方との再開があり、非常に充実した時間となりました。特に、女性参加者のみなさんの生き生きとした様子を見て、たくさんのエネルギーをもらいました。圧倒的に男性が多い野田建築会ですが、少ないながらも頑張っている女性達の活躍も、是非応援、ご期待頂けたら幸いです。

(とりやまあきこ 2003 年修了 初見研究室)

野田建築会会報 VOL.35 2016 SPRING

2016 年 3 月 1 日

編集：会報部会 (とりやまあきこ・山崎晃弘)

発行：東京理科大学野田建築会

郵便振替 口座番号 00130-9-27644 東京理科大学野田建築会

お問合せおよびメルマガ登録はこちらから——

<http://www.rikadaikenchiku.com>